

上級 商 業 簿 記 ①

損 益 勘 定

(単位：千円)

[illegible]

上級 商 業 簿 記 ②

ネットスクール株式会社 Copyright (C) Net School Corp. All Rights Reserved.

第31回（通算第149回）簿記能力検定試験問題解答用紙

上級 商 業 簿 記 ③

〔設問2〕

(単位：千円)

取 引 日	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額	
平成17年12月29日	機 械	21,000	未 払 金	21,000	④
平成18年 1 月31日	機 械	672	当 座 預 金	700	④
	支 払 保 険 料	28			
平成18年 2 月10日	未 払 金	21,000	営 業 外 支 払 手 形	21,000	④

予想採点基準

④ … 4点×25 = 100点

第31回（通算第149回）簿記能力検定試験問題解答用紙

上級 会 計 学 ①

解 答

問題 1

番号	正誤欄	理 由
1	○	
2	×	減損損失は、帳簿価額と正味売却価額と使用価値のうち高い価格との差額として計算される。
3	○	
4	×	先物取引差金は、実現した先物利益または損失を示す貸借対照表上の項目である。
5	○	
6	×	目的に合致した任意積立金の取り崩しは、損益計算書に計上される。
7	○	
8	×	支払利息は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載することもできる。
9	×	子会社株式を数回にわたり取得した場合には、連結調整勘定の金額は異なる。
10	×	中間連結財務諸表では、利害関係者の判断を誤らせない限り、各科目を集約して記載できる。

各④

問題 2

設問 1

	要件が同じ場合は、○、異なる場合は、×を書く	前の欄に、×を記入した場合には、前払費用から見た異なる点を書く。 ○を記入したときは、書かない。つまり、空白のままにする。
①の要件	○	
②の要件	×	前払費用は役務の提供を受けていないこと。
③の要件	×	前払費用は効果の発現する期間を客観的に把握することが可能であること。

各④

設問 2

「ある」か「ない」かを○で囲みなさい。		「ある」と答えた場合には、どのような場合かを書きなさい。
ある	ない	研究費を当期製造費用として処理し、期末仕掛品・製品となった場合、資産計上される。

④

第31回（通算第149回）簿記能力検定試験問題解答用紙

上級 会 計 学 ②

設問 3

	a	b	c	d
括弧に入る言葉	創立費	開業費	研究費	開発費
	e	f	g	h
括弧に入る言葉	新株発行費	社債発行費	社債発行差金	建設利息

各②

設問 4

合理的と考える償却法
社債発行費を社債の償還期間にわたり償却する方法が合理的である。

④

設問 5

資産性を認める場合の「ある重要な条件」
将来の納税額の減少が確実に見込まれることが資産性を認める場合の重要な条件である。

④

問題 3

行われる会計手続（取引）	流動比率			負債比率		
例：新株を発行し、得た資金すべてで設備を購入した。	良化	☐ 不変	☐ 悪化	☒ 良化	☐ 不変	☐ 悪化
ア：商品に低価基準を適用した。	良化	☐ 不変	☐ 悪化	良化	☐ 不変	☐ 悪化
イ：支払手形を新手形に利息を加えて更改した（書き替えた）。	良化	☐ 不変	☐ 悪化	良化	☐ 不変	☐ 悪化
ウ：有形固定資産に減損損失を計上した。	良化	☐ 不変	☐ 悪化	良化	☐ 不変	☐ 悪化
エ：税効果会計を適用し、その他有価証券の評価益を計上した。	良化	☐ 不変	☐ 悪化	☒ 良化	☐ 不変	☐ 悪化
オ：設備拡張積立金を取り崩し、同額の設備を現金で購入した。	良化	☐ 不変	☐ 悪化	良化	☐ 不変	☐ 悪化

各④

予想採点基準

④ … 4点×21 = 84点

② … 2点× 8 = 16点

合計 100点

第31回（通算第149回）簿記能力検定試験問題解答用紙

上級 工業簿記 ①

問題 1

設問 1 製品 X 2 月初仕掛品加工費 (145,200) 円 ②

設問 2 製品 X 1 月末仕掛品原価

直接材料費分 (1,368,000) 円 ⑧
加工費分 (332,100) 円 ⑧

直接材料費分の計算過程

$$8,964,960 \div (11,500 + 10,200 \times 0.8) = @456$$

$$@456 \times 11,500 \times \frac{3,000}{11,500} = 1,368,000$$

加工費分の計算過程

$$4,848,660 \div (10,900 \times 0.9 + 9,900) = @246$$

$$@246 \times 10,900 \times 0.9 \times \frac{1,500}{10,900} = 332,100$$

設問 3 製造工程の50%のポイントで発生した製品 X 2 仕損の仕掛品原価

直接材料費分 (182,400) 円 ⑧
加工費分 (61,500) 円 ⑧

直接材料費分の計算過程

$$@456 \times 10,200 \times 0.8 \times \frac{500}{10,200} = 182,400$$

加工費分の計算過程

$$@246 \times 9,900 \times \frac{250}{9,900} = 61,500$$

設問 4 製品 X 2 の正常仕損費負担前直接材料費月末仕掛品原価 (1,240,320) 円 ⑧

設問 5 製造工程の50%のポイントで発生した製品 X 2 仕損の仕損費 (236,880) 円 ⑧

設問 6 製品 X 2 の正常仕損費負担後の月末仕掛品原価 (1,827,840) 円 ⑩

計算過程

$$236,880 \times \frac{3,400}{8,000 - 2,000 + 3,400} = 85,680$$

$$1,742,160 + 85,680 = 1,827,840$$

設問 7 製品 X 2 完成品が負担する正常仕損費 (308,088) 円 ⑤

設問 8 製品 X 2 の正常仕損費負担後の完成品総合原価 (5,182,488) 円 ⑤

設問 9 仕掛品勘定から製品勘定への振替仕訳

(借方) (製 品) 11,945,328 / (貸方) (仕掛品) 11,945,328 ⑤

第31回（通算第149回）簿記能力検定試験問題解答用紙

上級 工業簿記 ②

問題 2

設問 1 直接材料費分の正常減損 (675,000) 円 ⑩

計算過程

$$1,500\text{個} \times 0.1\text{個} \times 9\text{kg} \times @500 = 675,000$$

設問 2 直接材料費分の異常減損費 (22,500) 円 ⑤

設問 3 仕掛品勘定から製品勘定への振替仕訳

(借方) (製 品) 10,425,000 / (貸方) (仕掛品) 10,425,000 ⑤

設問 4 標準原価差異勘定への振替額 (62,500) 円 ⑤

(借 方) 記入

予想採点基準

②…2点×1=2点

⑤…5点×6=30点

⑧…8点×6=48点

⑩…10点×2=20点

合計：100点

第31回（通算第149回）簿記能力検定試験問題解答用紙

上級 原 価 計 算

問題 1

設問 1 キャッシュ・フロー

現在時点	3,250	万円	(-) ⑩
第1年度	1,260	万円	(+) ⑩
第2年度	1,260	万円	(+) ⑩
第3年度	1,360	万円	(+) ⑩

設問 2 正味現価が 76.42 万円の 増加 となるので取り替えるべきで ある。 全て正解で⑤

設問 3 埋没原価の説明 投資案にかかわらず発生額が不変であり、経営者の意思決定に影響を受けない原価。 ⑩

反対の原価概念 差額原価 ⑤

問題 2

設問 1	実際配賦率	560	円／時間 ⑧
	P 製品 1 個当たり製造間接費	2,240	円 ⑧
	Q 製品 1 個当たり製造間接費	2,800	円 ⑧
設問 2	P 製品 1 個当たり製造間接費	1,935	円 ⑧
	Q 製品 1 個当たり製造間接費	3,055	円 ⑧

予想配点基準

⑤…5点×2＝10点

⑧…8点×5＝40点

⑩…10点×5＝50点

合計 100点